

Remark Office OMR[®]

Version 8

対応ファイル形式

－ユーザーズガイド 補足－

株式会社 ハンモック

改版履歴

版	日付	内容
初版	2013 年 09 月 12 日	新規作成

目 次

1.0 概要.....	1
1.1 REMARK ファイル形式(RMK).....	3
1.2 REMARK OFFICE ARCHIVE ファイル形式(ROA).....	3
1.3 SQL サーバー形式(MDF).....	4
1.4 ORACLE 形式(*.*).....	4
1.5 ACCESS 形式(ACCDB , MDB).....	4
1.6 EXCEL 形式(XLSX, XLS).....	5
1.7 QUESTIONMARK 形式(QSF).....	6
1.8 SPSS LEGACY ファイル形式(SAV).....	7
1.10 SURVEY PRO ファイル形式(SRV).....	9
1.11 SURVEY PRO STL ファイル形式(STL, ST3).....	9
1.12 ASCII ファイル形式(ASC).....	9
1.13 スプレッドシートファイル形式(TXT).....	10
1.14 THE SURVEY SYSTEM ファイル形式(DAT, CRS).....	10
1.15 dBASE 形式(DBF).....	10
1.16 PARADOX 形式(DB).....	11
1.17 LOTUS 形式(WKS, WK1, WK3, WK4).....	12
1.18 LXR TEST 形式(MRG).....	12
1.19 REPORT 形式(RPT).....	12
1.20 DATA INTERCHANGE 形式(DIF).....	13
1.21 XML 形式(XML).....	13
1.22 HTML 形式(HTM, HTML).....	13
1.23 ODBC.....	14
1.24 カスタム(TXT, ASC).....	14
1.25 データベース更新.....	14
1.26 ODBC データベース更新.....	15

1.0 概要

この補足では、Remark Office OMR がデータを開いたり保存したりする際に利用できる、サポート対象のデータファイル形式について説明します。以下の表には、Remark Office OMR ソフトウェアがサポートするファイルの形式、その拡張子と簡単な説明を示します。詳細は、個々の項目を参照してください。フォームテンプレートを作成する場合は、データを保存するファイル形式を考慮する必要があります。ファイル形式の中には、フォームテンプレートを作成する場合に、オプションや制限の指定が必要になるものがあります。

注:ここにリストする形式の説明と制限は、サポートされている最新バージョンのものです。特定フォーマットの最新の説明と制限については、アプリケーション独自の形式の説明書を参照してください。

ファイル形式	拡張子	説明
Remark Archive	ROA	Remark Office OMR アーカイブ形式
Remark	RMK	すべての Remark 製品で使用される汎用的な Remark 形式
SQL サーバー 2000-2005	MDF	SQL サーバー形式
Oracle 7.4 以降	AL	Oracle 形式
Access 2007-2010	ACCDB	Microsoft Access 2007-2010 形式
Access 2000, 2002, 2003	MDB	Microsoft Access 2000-2003 形式
Access 95-97	MDB	Microsoft Access 95-97 形式
Access 2.0	MDB	Microsoft Access 2.0 形式
Access 1.0	MDB	Microsoft Access 1.0 形式
Excel 2007-2010	XLSX	Microsoft Excel 2007-2010 形式
Excel 97-2003	XLS	Microsoft Excel 97-2003 形式
Excel 95	XLS	Microsoft Excel 95 形式
Excel 4.0	XLS	Microsoft Excel 4.0 形式
Excel 3.0	XLS	Microsoft Excel 3.0 形式
Questionmark	QSF	Questionmark Perception 形式(保存のみ)
SPSS	SAV	SPSS16 形式
SPSS Legacy	SAV	SPSS Legacy 形式
Survey Pro	SRV	Survey Pro 標準形式(Apian Software)
Survey Pro STL	STL	Survey Pro STL 形式(Apian Software)
ASCII [コンマ]	ASC	コンマで区切った ASCII 形式
ASCII [タブ]	ASC	タブで区切った ASCII 形式
スプレッドシート[コンマ]	TXT	コンマで区切り、数値以外のデータを引用符で囲んだ ASCII 形式
スプレッドシート[タブ]	TXT	タブで区切り、数値以外のデータを引用符で囲んだ ASCII 形式
Survey System	DAT	Survey System 形式(Creative Research Systems)
dBase V	DBF	dBase V 形式

ファイル形式	拡張子	説明
dBase IV	DBF	dBase IV 形式
dBase III	DBF	dBase III 形式
Paradox 5.X	DB	Paradox 5.X 形式(新規ファイルか、または既存ファイルの上書きのみ)
Paradox 4.X	DB	Paradox 4.X 形式(新規ファイルか、または既存ファイルの上書きのみ)
Paradox 3.X	DB	Paradox 3.X 形式(新規ファイルか、または既存ファイルの上書きのみ)
Lotus WK4	WK4	Lotus Works 4 形式(オープンのみ)
Lotus WK3	WK3	Lotus Works 3 形式
Lotus WK1	WK1	Lotus Works 1 形式
Lotus 1-2-3	WKS	Lotus 1-2-3 形式
LXR Test	MRG	LXR Test 形式
Report	RPT	固定 ASCII 形式。セルのテキストは指定したレコード長に合わせて補填されます(テキストが指定したレコード長を超えた場合はエラーメッセージが通知されます)。
Data Interchange Format	DIF	ファイルヘッダーとデータセクションを使用する標準形式
XML	XML	Extensible Markup Language (拡張可能マークアップ言語)形式
HTML	HTM	Hypertext Markup Language (ハイパーテキストマークアップ言語)
ODBC	*.*	Open Database Connectivity (オープンデータベースコネクティビティ)
Custom	ASC, TXT	カスタム形式のテキスト
データベース更新	XLS, XLSX, MDB, ACCDB	既存のファイルを更新する Access または Excel 形式
ODBC データベース更新	*.*	既存のファイルを更新する Open Database Connectivity 形式

Remark Office OMR は、数多くの種類のファイルフォーマットのデータを保存し、また開くことができます。各形式には、それぞれの要件と制限があります。以下の項では、それぞれの形式についての概要と、Remark Office OMR でその形式を使用する際に考慮すべきこと、その形式の制限事項などについて説明します。詳細は、アプリケーション特有の形式(Access、Excel、SPSS など)についてのユーザズガイドを参照してください。

1.1 Remark ファイル形式(RMK)

Remark ファイル形式は Remark ソフトウェアの専用形式であるため、Remark アプリケーションでのみ使用できます。Remark ファイル形式をデフォルトのファイル形式として使用し、他のファイル形式での保存は、他のアプリケーションにデータをエクスポートする場合にのみ行うことをお勧めします。

ヒント:各グリッドセルとそれに対応する画像の間のリンクや例外カラーを保存する形式は、Remark 形式と Remark Office Archive 形式のみです。他の形式にデータをエクスポートすると、その形式でセル内をクリックしても対応する画像を表示させることはできません。他の形式にデータをエクスポートする場合は、データを完全にクリーニングした後でのみ行ってください。

拡張子	▪ RMK
オプション	<ul style="list-style-type: none">▪ [イメージの保存]:RMK 形式は、格納した画像とデータの間のリンクを自動的に保存します。その後、画像ファイルを参照してデータを確認できます。▪ [グリッドカラーの保存]:RMK 形式は、データ内の例外カラーを自動的に保存します。これを例外カラーと組み合わせて使用すると、データのクリーニングができます。
制限	▪ なし

1.2 Remark Office Archive ファイル形式(ROA)

Remark Office Archive ファイル形式は Remark Office OMR ソフトウェアの専用形式であるため、Remark Office OMR でのみ使用できます。ソフトウェアのコピーを複数所有して使用している場合は、この機能が便利です。たとえば、あるシステムで1人がフォームをスキャンして、そのデータを Remark Office Archive 形式で保存します。その後、別のユーザーがその Remark Office Archive ファイルを開くと、フォームテンプレート、データファイル、格納済み画像がすべて揃っているので、例外確認機能を使用してデータをクリーニングすることができます。このファイル形式を使用すると、作業を分担する際に、さまざまなファイルタイプを探す手間が省けます。

注意!Remark Office OMR を複数のコンピュータにインストールする場合は、このユーザーズガイドの冒頭に記載したライセンス契約を事前によくお読みください。ライセンスはコンピュータ単位です。つまり、ソフトウェアのコピー1部は1台のコンピュータにのみインストールできます。

拡張子	▪ ROA
オプション	<ul style="list-style-type: none">▪ [イメージの保存]:ROA 形式は、格納した画像とデータの間のリンクを保存します。その後、画像ファイルを参照してデータを確認できます。▪ [グリッドカラーの保存]:ROA 形式は、データ内の例外カラーを自動的に保存します。これを例外カラーと組み合わせて使用すると、データのクリーニングができます。▪ [アーカイブ後に元のイメージを削除]:このチェックボックスをマークすると、アーカイブファイルに格納されたオリジナルの画像が削除されます。画像を削除しない場合、zip 形式のファイルと同じようにオリジナルのコピーが残ります。この画像を削除しても、ROA ファイルを開いて再度取得することができます。
制限	▪ なし

1.3 SQL サーバー形式(MDF)

SQL サーバーファイル形式は、Microsoft 社の SQL サーバーデータベースプログラムの専用形式です。Remark Office OMR は、SQL サーバーバージョン 2000-2005 の形式をサポートします。Remark Office OMR では、新規 SQL サーバーデータベースへのデータ保存、既存の SQL サーバーデータベースへの新規テーブルの追加、既存の SQL サーバーテーブルの末尾へのデータの追加ができます。

拡張子	<ul style="list-style-type: none">• MDF
オプション	<ul style="list-style-type: none">• [サーバー] :SQL サーバー形式は、指定したサーバーにデータを保存します。• [データベース] :SQL サーバー形式は、指定したデータベースにデータを保存します。• [テーブル名] :SQL サーバー形式は、指定したデータベース内のテーブルにデータを保存します。新規テーブルを作成することも、既存のテーブルにデータを保存することもできます。• [ログイン] :セキュリティのためデータベースにログインできません。
制限	<ul style="list-style-type: none">• 特定形式の制限については、データベースの説明書を参照してください。

1.4 Oracle 形式(*.*)

Oracle ファイル形式は、Oracle 社の Oracle データベースプログラムの専用形式です。Remark Office OMR は、Oracle バージョン 7.4 以降の形式をサポートします。Remark Office OMR は、既存の Oracle データベースに新規テーブルを追加したり、また既存の Oracle テーブルの末尾にデータを追加することができます。

拡張子	<ul style="list-style-type: none">• AL
オプション	<ul style="list-style-type: none">• [サーバー] :Oracle 形式は、指定したサーバーにデータを保存します。• [テーブル名] :Oracle 形式は、指定したデータベース内のテーブルにデータを保存します。新規テーブルを作成することも、既存のテーブルにデータを保存することもできます。• [ログイン] :セキュリティのためデータベースにログインできません。
制限	<ul style="list-style-type: none">• 特定形式の制限については、データベースの説明書を参照してください。

1.5 Access 形式(ACCDB , MDB)

Access ファイル形式は、Microsoft 社の Access データベースプログラムの専用形式です。Remark Office OMR は Access バージョン 1.0 から 2010 のファイル形式をサポートします。Remark Office OMR のカラム(フィールド)名は、Access データベースに保存する際のフィールド名として使用されます。

Remark Office OMR では、新規 Access データベースへのデータ保存、既存の Access データベースへの新規テーブルの追加、既存の Access テーブルの末尾へのデータの追加ができます。

拡張子	<ul style="list-style-type: none"> • ACCDB, MDB
オプション	<ul style="list-style-type: none"> • [テーブル名] :Access データベースに保存する場合は、データを保存するテーブル名を選択する必要があります。
制限	<ul style="list-style-type: none"> • フィールド(フィールド)およびテーブル名の長さは、最大 60 文字(スペースを含む)です。フィールド(フィールド)およびテーブル名には、先頭のスペース、ピリオド(.)、感嘆符(!)、アクセント記号(^)、大カッコ(())は使用できません。 • Access テーブルの最大フィールド数は 255 件です。 • フィールド(フィールド)名はすべて一意に定まる必要があります。 • Access テーブルのレコードの最大文字数は 2000 文字です(MEMO および OLE オブジェクトフィールドを除く)。 • データを既存のテーブルに保存する場合、Remark Office OMR のグリッドカラムヘッダー(フィールド名)がテーブルのフィールド名と一致している必要があります。 • Remark Office OMR が Access テーブルを作成する際、テキストフィールドには最大 255 文字を含むことができます。255 文字を超える内容をサポートするフィールドを使用したい場合は、Microsoft Access でデータベースを編集して、フィールドタイプを Text から Memo フィールドに変更してください。あるいは、[Remark Office OMR データの保存] ウィンドウで [詳細] ボタンをクリックして、フィールドタイプを Memo に変更することもできます。

1.6 Excel 形式(XLSX, XLS)

Excel ファイル形式は、Microsoft 社の表計算プログラム Excel の専用形式です。Remark Office OMR は Excel バージョン 3.0 から 2007 のファイル形式をサポートします。Remark Office OMR のカラム(フィールド)名は、Excel のスプレッドシートに保存する際のフィールド名として使用されます。

Remark Office OMR では、新規 Excel スプレッドシートへのデータ保存、既存の Excel スプレッドシートへの新規シートの追加、既存の Excel ファイルの末尾へのデータ追加ができます。

拡張子	<ul style="list-style-type: none"> • XLSX, XLS
オプション	<ul style="list-style-type: none"> • [シート名] :Excel スプレッドシートに保存する場合は、データを保存するシート名を選択する必要があります。
制限	<ul style="list-style-type: none"> • フィールド名の中のスペースは、自動的に下線文字に変換されます。 • フィールド名はすべて一意に定まる必要があります。 • フィールド名は最大 60 文字です。 • Excel テーブルの最大フィールド数は 255 件です。 • データを既存のシートに保存する場合、Remark Office OMR のグリッドカラムヘッダーがスプレッドシートのフィールド名と一致している必要があります。 • 1 セル内の最大文字数は 255 文字です。 • 新規ワークシートを作成することも、既存のワークシートの末尾にデータを追加することもできます。既存のワークシートを上書きすることはできません。

1.7 Questionmark 形式(QSF)

Questionmark 形式は、アセスメント用のソフトウェアプログラム Questionmark Perception の専用形式です。この形式では、スナップショット ID (アセスメントを識別するための一意の値)や参加者(各回答者を識別するフィールド)などの特定のパラメータを定義する必要があります。また、グループ、詳細、日付、モニターなどのようなオプションのパラメータもあります。この情報は、Perception で最初に定義した情報にできるだけ近づけるようにしてください。たとえば、使用するスナップショット ID は、Perception でこのフォームの ID として定義し、参加者 ID は Perception で学生 ID として定義し、グループを定義し、質問をこのフォームと同じ順序で定義し、特殊フィールドを適切な順序で定義し、詳細も(このフィールドがどのような種類の情報を含むかなど)定義しておかなければなりません。詳細は、以下の表を参照してください。

拡張子	<ul style="list-style-type: none"> QSF
必須パラメータ	<ul style="list-style-type: none"> 「スナップショット ID」:評価を一意に識別する値。データファイル内の各レコードには、同一のスナップショット ID が必要です。スナップショット ID は、1 から 99999999 までの数値でなければなりません。スナップショット ID を含むフィールドを選択するか、または手動で入力します。 「参加者」:参加者、学生、または回答者の識別 ID。このフィールドは、各回答者を一意に識別します。データファイル内の各レコードには、一意に定まる ID が必要です。この情報を含むフィールドを選択してください。
オプションのパラメータ	<ul style="list-style-type: none"> 「グループ」:グループ、カテゴリ、コースまたは部門。このエントリは、Questionmark アプリケーションで定義したグループと一致している必要があります。グループを含むフィールドを選択するか、またはグループ名を手動で入力します。 「詳細」:オプションの統計データ。詳細を含むフィールドを選択するか、または値を手動で入力します。 「日付」:評価が行われた日付。日付を含むフィールドを選択するか、または手動で入力します。 「モニター」:モニター、教員またはインストラクター名。モニター名を含むフィールドを選択するか、または手動で入力します。
制限	<ul style="list-style-type: none"> Questionmark 形式は、データを保存する場合にのみ使用できます。新規にファイルを作成するか、または既存のファイルを上書きすることができますが、Remark Office OMR でファイルを開くことはできません。 フィールド名に二重引用符(")は使用できません。 フィールド名またはデータラベルの前後に入力したスペースは無視されます。ただし、フィールド名またはデータラベルの文字の間にはスペースを使用できます。(たとえば、“John”は“John”になりますが、“John Smith”は“John Smith”になります。 評価対象の質問は、かならず「Q1、Q2、Q3...」または「Question1、Question2、Question3...」のようなフィールド名を使用する必要があります。 オプションとして、オプションの統計データを含むような質問「Special1 - Special10」などを定義することもできます。 参加者、グループ、詳細、モニター、Special1 - Special10 のフィールドには、最大 50 文字まで含むことができます(それを超えると切り詰められます)。 例外はすべて、この形式にエクスポートする前に修正する必要があります。

ります。エクスポート中に評価対象の質問で例外が発見された場合は、すべて未回答の質問として処理されます。

1.8 SPSS Legacy ファイル形式(SAV)

SPSS ファイル形式は SPSS, Inc. の SPSS データベースプログラムの専用形式です。Remark Office OMR のカラムヘッダー(フィールド名)は、SPSS 変数名として保存されます。質問文は、入力された場合には SPSS 変数ラベルとして保存されます。Remark Office OMR は、フォームテンプレートを作成する際に、ラベル(Labels)と値(Values)をそれぞれ、SPSS 値のラベルと値の数値として定義します。Remark Office OMR の回答が欠落している、無効である、または認識できない場合、その回答には SPSS で欠落データに定義された-1 がデフォルトで割り当てられます。以下にリストした項目は、SPSS の新バージョンがリリースされると変更される可能性があるので注意してください。Remark Office OMR で定義する SPSS 形式では、ソフトウェアの旧バージョンと新バージョンの両方に互換性があるため、最も高い柔軟性が得られます。

注:SPSS ファイル形式は、各ラベルに対して数値データを出力します。デフォルトでは、Remark Office OMR は Values という連続した番号を割り当てるスキームを使用します。これは最初のラベル(Label)に 1 を指定します。これらの値は、質問のプロパティを選択すると、フォームテンプレート内で変更できます。

拡張子	<ul style="list-style-type: none">• SAV
オプション	<ul style="list-style-type: none">• [ヘッダーの保存] : [データの保存] ウィンドウの [ヘッダーの保存] オプションは、グリッドカラムヘッダー(フィールド名)を SPSS データファイル内のヘッダー名として保存します。[ヘッダーの保存] を選択しない場合、デフォルトの変数名(v1、v2 など)が使用されます。
制限	<ul style="list-style-type: none">• SPSS 形式で保存されるデータの最大文字数は、1 セルあたり 255 文字です。Remark Office OMR は、SPSS ファイルを保存する際に 255 文字を超えたセルテキストを自動的に切り詰めます。• ラベル(SPSS の Value Labels)の最大文字数は、60 文字です。• Values: フォームテンプレートの作成中に独自の値(Values)を定義しない場合、Remark Office OMR は、SPSS の値として使用する連続した値を割り当てます。• フィールド名(SPSS の Variable Names)の最大文字数は、8 文字です。フィールド名が 8 文字を超えると切り詰められます。• フィールド名(SPSS の Variable Names)は一意に定まる必要があります。フィールド名が 2 回以上使用されると、SPSS は標準の命名規約に従ってその名前を変換します(たとえば、v1 など)。• 質問名(SPSS の Variable Labels)の最大文字数は、120 文字です。• Remark Office OMR は、圧縮していない SPSS 形式のみを開き、保存できます。Remark Office OMR は圧縮された SPSS ファイルを開くことはできません。SPSS ファイルの圧縮を解除する必要がある場合は、まず SPSS でファイルを開いてください。[File] メニューを選択して [Save As] をクリックします。ファイル名を入力して [Paste] ボタンをクリックします。[Syntax Editor] ウィンドウで「COMPRESSED」を「UNCOMPRESSED」に変更します。[Ctrl+A] をクリックしてテキストを選択し、次に [Run] メニューを選択して [Current] をクリックします。• SPSS は、複数の回答(たとえば(A,B,C)など)を数値データとしてインポートすることはできません。Remark Office OMR で複数回答を許可する質問は、SPSS ファイル形式へエクスポートする際には文字

列の形式になり、正確にインポートできなくなります。複数回答を許可する質問を数値データとして SPSS にインポートするには、フォームテンプレートで質問を Boolean OMR フィールドに設定してください。そうすると、Remark Office OMR は回答を個別のセルに出力します(各回答選択肢は、データグリッドでは個別の質問として扱われます)。SPSS でいったんデータを開くと、質問の各回答に対するデータを連結して、1 つの質問に戻すことができます。詳細は、SPSS のユーザズガイドを参照してください。

1.9 SPSS ファイル形式(バージョン 16 互換) (SAV)

SPSS 16 ファイル形式は SPSS, Inc. の SPSS データベースプログラムの専用形式です。Remark Office OMR のカラムヘッダー(フィールド名)は SPSS 変数名として保存されます。質問文は、入力された場合には SPSS 変数ラベルとして保存されます。Remark Office OMR は、フォームテンプレートを作成する際に、ラベルと値をそれぞれ、SPSS 値のラベルと値の数値として定義します。Remark Office OMR の回答が欠落している、無効である、または認識できない場合、その回答には SPSS で欠落データに定義された -1 がデフォルトで割り当てられます。

注: SPSS ファイル形式は、各ラベルに対して数値データを出力します。デフォルトでは、Remark Office OMR は Values という連続した番号を割り当てるスキームを使用します。これは最初のラベルに 1 を指定します。これらの値は、質問のプロパティを選択すると、フォームテンプレート内で変更できます。

拡張子	<ul style="list-style-type: none">• SAV
オプション	<ul style="list-style-type: none">• ヘッダーの保存: [データの保存] ウィンドウの [ヘッダーの保存] オプションは、グリッドカラムヘッダー(フィールド名)を SPSS データファイル内のヘッダー名として保存します。[ヘッダーの保存] を選択しない場合、デフォルトの変数名(v1、v2 など)が使用されます。
制限	<ul style="list-style-type: none">• SPSS 形式で保存されるデータの最大文字数は、1 セルあたり 255 文字です。Remark Office OMR は、SPSS ファイルを保存する際に 255 文字を超えたセルテキストを自動的に切り詰めます。• ラベル(SPSS の Value Labels)の最大文字数は、60 文字です。• Values: フォームテンプレートの作成中に独自の値(Values)を定義しない場合、Remark Office OMR は、SPSS の値として使用する連続した値を割り当てます。• フィールド名(SPSS の Variable Names)の最大文字数は、60 文字です。フィールド名が 60 文字を超えると切り詰められます。• フィールド名(SPSS の Variable Names)の先頭に数字は使用できません。• フィールド名(SPSS の Variable Names)は一意に定まる必要があります。フィールド名が 2 回以上使用されると、SPSS は標準の命名規約に従ってその名前を変換します(たとえば、v1 など)。• 質問名(SPSS の Variable Labels)の最大文字数は、120 文字です。• 複数の回答を許容する質問は、回答選択肢ごとに個別の Boolean 質問に分割され、回答は選択されたことを示す 1 と選択されていないことを示す 0 の二分法で保存されます。質問はその後、分析可能な SPSS 複数回答セットとして定義されます。(Template Editor で質問を Boolean に設定する必要はありません。これは自動的に処理されます。)

1.10 Survey Pro ファイル形式(SRV)

Survey Pro ファイル形式は、コンマで区切った ASCII ファイルで、Apian Software による Survey Pro の旧バージョンにインポートするために設計されています。Survey Pro ファイル形式は、Survey Pro にデータをエクスポートする場合に使用します。Survey Pro では、数値データを最も簡単にインポートできます。そのため、Survey Pro で使用したいフォームテンプレートを作成する際には、複数選択肢の質問に対して数値データタイプを選択してください。たとえば、ある質問に対して選択可能な回答が「Excellent」「Good」「Fair」「Poor」の 4 種類であれば、ラベルとして 4、3、2、1 を使用します。テキストデータは引用符で囲み、オープンな質問(画像フィールド)でのみ使用してください。複数の回答は、(1;3;5)のようにセミコロンで区切ります。

拡張子	<ul style="list-style-type: none">SRV
オプション	<ul style="list-style-type: none">[ヘッダーの保存]：[データの保存] ウィンドウの [ヘッダーの保存] オプションは、グリッドカラムヘッダー(フィールド名)を Survey Pro データファイル内の最初のレコードとして保存します。これらは、データファイルをインポートする際に、フィールドのマッチングに使用できます。
制限	<ul style="list-style-type: none">OMR フィールドには数値データタイプを使用し、各回答選択肢には上記のようにそれぞれ対応する数値を入力する必要があります。

1.11 Survey Pro STL ファイル形式(STL, ST3)

Survey Tag Language (STL)は、調査用の質問とそのデータベースを記述するファイル形式です。この形式は、Apian Software の Survey Pro ソフトウェアで作成されます。Remark Office OMR にも、Survey Pro STL (STL、ST3)形式が含まれています。Survey Pro で STL ファイルを処理する場合はこの形式を使用します。データは、常に STL ファイルの末尾に追加されます。Remark Office OMR は、STL データを開いたり上書きしたりすることはできません。

拡張子	<ul style="list-style-type: none">STL、ST3
オプション	<ul style="list-style-type: none">なし
制限	<ul style="list-style-type: none">既存の STL/ST3 ファイルには、末尾への追加のみ行えます。

1.12 ASCII ファイル形式(ASC)

ASCII ファイル形式は汎用的な形式なので、多数のアプリケーションで使用できます。グリッドセルは、コンマまたはタブで区切られます。グリッド行は、CR と LF のシーケンスで区切られます。アプリケーションが ASCII ファイルで使用する拡張子は、それぞれ異なる場合がありますが、一般には ASC、CSV、TSV、TXT などが使用されます。

拡張子	<ul style="list-style-type: none">ASC
オプション	<ul style="list-style-type: none">[ヘッダーの保存]：[データの保存] ウィンドウの [ヘッダーの保存] オプションは、グリッドカラムヘッダー(フィールド名)を ASCII ファイル内の最初のレコードとして保存します。
制限	<ul style="list-style-type: none">コンマで区切った ASCII ファイルを保存すると、そのデータに複数の回答がある場合に、他のアプリケーションがファイルを開けないことがあります。複数回答は通常コンマを含みますが、コンマはセルの区切り文字としても使用されます。2 つ以上の回答を許可する質問では、カスタム形式の使用も検討してください。

1.13 スプレッドシートファイル形式(TXT)

スプレッドシートファイル形式は汎用的な形式なので、多数のアプリケーションで使用できます。スプレッドシート形式は、テキストデータを引用符で囲むという点を除いて、ASCII形式と同じです。グリッドセルは、コンマまたはタブで区切られます。グリッド行は、CR と LF のシーケンスで区切られます。

拡張子	<ul style="list-style-type: none">• TXT
オプション	<ul style="list-style-type: none">• [ヘッダーの保存] : [データの保存] ウィンドウの [ヘッダーの保存] オプションは、グリッドカラムヘッダー(フィールド名)をスプレッドシートデータファイル内の最初のレコードとして保存します。
制限	<ul style="list-style-type: none">• なし

1.14 The Survey System ファイル形式(DAT, CRS)

The Survey System ファイル形式は、Creative Research Systems の調査票デザインおよび分析用ソフトウェア、The Survey System の専用です。Remark Office OMR は、The Survey System ファイル形式に保存する際にデータファイルと質問定義ファイルの 2 つを作成します。The Survey System にデータをインポートするには、まず質問定義ファイル(拡張子 CRS)をインポートし、次に質問の内部でデータファイル(拡張子 DAT)を開きます。その他の事項については、The Survey System のユーザーズガイドを参照してください。データは The Survey System の形式でのみ保存されます(Remark Office OMR で開くことはできません)。

拡張子	<ul style="list-style-type: none">• DAT, CRS
オプション	<ul style="list-style-type: none">• なし
制限	<ul style="list-style-type: none">• 新規にファイルを作成するか、または既存のファイルを上書きすることのみ可能です(Remark Office OMR でデータファイルを開くことはできません)。

1.15 dBase 形式(DBF)

dBase ファイル形式は、アプリケーション間で情報をやり取りするために、一般的に使用されるデータベースファイル形式です。Remark Office OMR は dBase バージョン III、IV、V のファイル形式をサポートします。Remark Office OMR のカラム(フィールド)名は、dBase テーブルに保存する際のフィールド名として使用されます。dBase データベースは、ディレクトリで表されます。dBase テーブルは、dBase データベース内部の DBF ファイルで表されます。

Remark Office OMR は、新規の dBase テーブルにデータを保存したり、既存の dBase テーブルの末尾にデータを追加することができます。

拡張子	<ul style="list-style-type: none">• DBF
オプション	<ul style="list-style-type: none">• なし
制限	<ul style="list-style-type: none">• フィールド名の長さは、最大 10 文字(下線文字を含む)です。• フィールド名の中のスペースは、自動的に下線文字に変換されます。• フィールド名はすべて一意に定まる必要があります。• フィールド名に、句読記号は使用できません。• dBase テーブルの最大フィールド数は 255 件です。

- データを既存のテーブルに保存する場合、Remark Office OMR のグリッドカラムヘッダー(フィールド名)がテーブルのフィールド名と一致している必要があります。
- Remark Office OMR が dBase テーブルを作成する際、テキストフィールドには最大 255 文字を含むことができます。255 文字を超える内容をサポートするフィールドを使用したい場合は、dBase ソフトウェアプログラムでデータベーステーブルを編集して、フィールドタイプを Text から Memo フィールドに変更してください。あるいは、[Remark Office OMR データの保存] ウィンドウで [詳細] ボタンをクリックして、フィールドタイプを Memo に変更することもできます。

1.16 Paradox 形式(DB)

Paradox ファイル形式は、Borland International, Inc.のデータベースプログラム Paradox の専用形式です。Remark Office OMR は Paradox バージョン 3.X、4.X、5.X のファイル形式をサポートします。Remark Office OMR のカラム(フィールド)名は、Paradox データベースに保存する際のフィールド名として使用されます。

Remark Office OMR は、新規の Paradox データベースにデータを保存したり、既存のテーブルを上書きしたりすることができます。

拡張子	<ul style="list-style-type: none"> • DB
オプション	<ul style="list-style-type: none"> • [プライマリインデックス] :Paradox データベースに保存する場合は、プライマリインデックスとして使用するフィールド名を選択する必要があります。
制限	<ul style="list-style-type: none"> • [プライマリインデックス] :プライマリインデックスとして使用するフィールドを選択する必要があります。プライマリインデックスでは、各レコードがそれぞれ一意に定まる値を含んでいる必要があります。 • Remark Office OMR が Paradox テーブルにデータを保存する場合、ParadoxNetStyle は、選択した Paradox 保存形式に設定する必要があります。(ParadoxNetStyle プロパティについての詳細は、Paradox データベースの説明書を参照してください。) • フィールド名はすべて一意に定まる必要があります。 • Paradox テーブルの最大フィールド(カラム)数は 255 件です。 • Paradox レコードの最大サイズは 10,800 バイトです。 • データを既存のテーブルに保存する場合、Remark Office OMR のグリッドカラムヘッダー(フィールド名)がテーブルのフィールド名と一致している必要があります。 • Remark Office OMR が Paradox テーブルを作成する際、テキストフィールドには最大 255 文字を含むことができます。255 文字を超える内容をサポートするフィールドを使用したい場合は、Paradox でデータベースを編集して、フィールドタイプを Text から Memo フィールドに変更してください。あるいは、[Remark Office OMR データの保存] ウィンドウで [詳細] ボタンをクリックして、フィールドタイプを Memo に変更することもできます。

1.17 Lotus 形式(WKS, WK1, WK3, WK4)

Lotus ファイル形式は、Lotus Development Corporation のプログラム Lotus 1-2-3 の専用形式です。Remark Office OMR は、Lotus 1-2-3、WK1、WK3、WK4 の形式をサポートします。

拡張子	<ul style="list-style-type: none">WKS, WK1, WK3, WK4
オプション	<ul style="list-style-type: none">なし
制限	<ul style="list-style-type: none">Lotus 1-2-3 バージョン 2.0 の形式で保存されるデータの最大文字数は、1 セルあたり 240 文字です。Lotus 1-2-3 ファイル形式で保存する際に、いずれかのセルが 240 文字を超えると、Remark Office OMR はエラーメッセージを表示します(セルの位置をリスト表示)。テキストデータがセルに少しでも含まれていれば、そのカラム全体が数値ではなく文字列(テキスト)として保存されます。WK4 形式のデータは、開くことしかできません(保存は不可)。

1.18 LXR Test 形式(MRG)

Logic Extension Resources の LXR Test は、データを LXR Test にエクスポートするための、タブで区切った ASCII ファイルです。ファイルにはカスタムヘッダーがあり、その後にデータが続いています。グリッド行は、CR と LF のシーケンスで区切られます。

拡張子	<ul style="list-style-type: none">MRG
オプション	<ul style="list-style-type: none">なし
制限	<ul style="list-style-type: none">なし

1.19 Report 形式(RPT)

Report ファイル形式は、固定幅の ASCII ファイルです。各セルには、必要に応じて指定した長さまでの補填が行われます。グリッド行は、CR と LF のシーケンスで区切られます。ファイルの先頭にはレコード長の指定が書き込まれ、その後に実際のデータが続きます。

拡張子	<ul style="list-style-type: none">RPT
オプション	<ul style="list-style-type: none">[ヘッダーの保存] : [データの保存] ウィンドウの [ヘッダーの保存] オプションは、グリッドカラムヘッダー(フィールド名)を Report データファイル内の最初のレコードとして保存します。[レコード長] : [データの保存] ウィンドウの [レコード長] オプションを使用すると、ファイルに書き込まれる各データ部分の長さ(固定)を選択できます。
制限	<ul style="list-style-type: none">いずれかのセルに指定されたレコード長を超えるデータがある場合、Remark Office OMR はエラーメッセージを表示して、そのセルの位置をリスト表示します。

1.20 Data Interchange 形式(DIF)

Data Interchange ファイル形式は、お互いに互換性のないプログラムの間でデータを交換する場合に使用される「標準的」な方法です。その性質から、DIF はセル形式のようなプログラム特有の情報をサポートすることはできません。

拡張子	• DIF
オプション	• なし
制限	• なし

1.21 XML 形式(XML)

The XML 形式はデータを XML ファイルに保存します。XML は Extensible Markup Language (拡張可能なマークアップ言語)の略で、インターネットでのデータ交換に広く使用されています。

拡張子	• XML
オプション	• なし
制限	<ul style="list-style-type: none">• フィールド名の長さは、最大 60 文字(スペースを含む)です。• フィールド名には、先頭のスペース、ピリオド(.)、感嘆符(!)、アクセント記号(`)、大カッコ(())は使用できません。• XML ファイルの最大フィールド数は 255 件です。• フィールド名はすべて一意に定まる必要があります。• XML レコードの最大文字数は 2000 文字です(Memo および OLE オブジェクトフィールドを除く)。• データを既存のファイルに保存する場合、Remark Office OMR のグリッドカラムヘッダー(フィールド名)がフィールド名と一致している必要があります。• Remark Office OMR が XML ファイルを作成する際、テキストフィールドには最大 255 文字を含むことができます。255 文字を超える内容をサポートするフィールドを使用したい場合は、フィールドタイプを Text から Memo フィールドに変更してください。あるいは、[Remark Office OMR データの保存] ウィンドウで [詳細] ボタンをクリックして、フィールドタイプを Memo に変更することもできます。

1.22 HTML 形式(HTM, HTML)

HTML は、Hyper Text Markup Language (ハイパーテキストマークアップ言語)の略です。HTML 形式は、データと結果を Remark Office OMR からインターネットまたはイントラネットへ公開する場合に使用します。Remark Office OMR は、Web ベースのドキュメントに含められるよう、データとともにグラフ(分析レポートより)を保存します。

拡張子	• HTM, HTML
オプション	• なし
制限	• なし

1.23 ODBC

ODBC は、Open Database Connectivity (オープンデータコネクティビティ)の略です。データベースの多くは、ODBC ドライバを使用できます。Remark Office OMR で ODBC ドライバを使用する場合は、ドライバをインストールして正しく設定しておく必要があります。設定とインストールの手順については、データベースの説明書を参照してください。

拡張子	• *.*
オプション	• なし
制限	• 特定形式の制限については、データベースの説明書を参照してください。

1.24 カスタム(TXT, ASC)

カスタム形式を使用すると、カスタマイズしたテキストファイルを作成できます。この形式は、独自の要件を備えたデータベースやアプリケーションにデータをエクスポートする場合に便利です。またこの形式は、データ行を複数行に分割する場合にも使用できます。カスタム形式の使い方についての詳細は、10.12.2 項を参照してください。

拡張子	• TXT, ASC
オプション	• Remark Office OMR ユーザーズガイドの 8.6.3 項を参照してください。
制限	• Remark Office OMR ユーザーズガイドの 8.6.3 項を参照してください。

1.25 データベース更新

データベース更新形式を使用すると、Remark Office OMR のデータグリッドに基づいて、既存のデータベースを更新できます(Access または Excel)。データは、フィールド名とマッピング処理によって既存のデータベースとマッチングされます。この形式に保存する際には、Remark Office OMR データのフィールドを、既存データベースのフィールドにマッピングします。また、レコードの ID にする質問(1 つまたは複数)を選択します。データベース内にレコード ID が存在する場合は、Remark Office OMR の内容に合わせて更新されます。たとえば、コース評価を行っており、フォーム上では学生 ID 番号が要求されているとします。この場合、学生 ID をレコード ID として使用し、データベース更新形式を用いて外部データベースを更新できます。保存処理中に、Remark Office OMR はデータベース内で学生 ID を検索し、次にその学生に関連付けられたデータフィールドを更新します。学生 ID が見つからない場合は、外部データベースに学生レコードを追加するという選択ができます。

拡張子	• ACCDB, MDB, XLTX, XLS
オプション	• [テーブル名] :データベースの中でデータを保存するテーブルを選択します。 • [フィールドマッピング] :フォームテンプレート内のフィールドをデータベースのフィールドにマッピングし、データベースレコードを更新します(Remark Office OMR は、フィールド名とフィールド名に基づいてこれを実行します)。ID として使用するフィールドを選択して、データの検索とマッチングの方法が Remark Office OMR にわかるようにしてください。
制限	• 特定形式の制限については、データベースの説明書を参照してください。

1.26 ODBC データベース更新

ODBC データベース更新形式は、データベース更新形式と同じように動作しますが、ODBC 接続を使用してデータを保存する点が異なります。ODBC データベース更新形式を使用して既存のデータベースを更新するには、まず使用するデータベース形式の ODBC ドライバをインストールして、[データの保存] ウィンドウで ODBC 接続を設定しておく必要があります。データベース更新の流れをもう一度ご説明します。データは、フィールド名とマッピング処理によって既存のデータベースとマッチングされます。この形式に保存する際には、Remark Office OMR データのフィールドを、既存データベースのフィールドにマッピングします。また、レコードの ID にする質問(1 つまたは複数)を選択します。データベース内にレコード ID が存在する場合は、Remark Office OMR の内容に合わせて更新されます。たとえば、コース評価を行っており、フォーム上では学生 ID 番号が要求されているとします。この場合、学生 ID をレコード ID として使用し、データベース更新形式を用いて外部データベースを更新できます。保存処理中に、Remark Office OMR はデータベース内で学生 ID を検索し、次にその学生に関連付けられたデータフィールドを更新します。学生 ID が見つからない場合は、外部データベースに学生レコードを追加するという選択ができます。

拡張子	<ul style="list-style-type: none">• *.*
オプション	<ul style="list-style-type: none">• Remark Office OMR ユーザーズガイドの 8.6.4 項を参照してください。
制限	<ul style="list-style-type: none">• 特定形式の制限については、データベースの説明書を参照してください。